

# 放課後等デイサービスガイドライン自己評価表

## 回答率

事業所職員： 5名回答、回答率 100%  
保護者様： 20名回答、回答率 77%

## 職員の意見

### ○環境・体制整備

教室の環境は、利用者目線で利用目的に合わせた境界線が出来ており、利用しやすい環境になっている。しかし、お手洗い前の段差等バリアフリーへの対策は改善の余地がある。  
体制は、送迎の都合上、教室の指導員の数が少なくなる場面があるため、業務前MTG等で支援・職員配置・安全面について検討し、対応している。

### ○業務改善

普段からスタッフ間の意見交換や、心理士を含めた業務前MTG等、支援の質の向上を図る話し合いの機会を設けている。  
それぞれの業務を分担して行い、スタッフ間で協力ができるような体制をとっている。

### ○適切な支援の提供

業務前MTGや、個別支援計画作成の際に、個別課題や普段の利用者様の行動についてスタッフ間で話し合うことで、生徒への支援内容をその時々に合わせてアップデートしている。

### ○関係機関や保護者との連携

他事業所とも連携を図り、円滑に情報共有を行っている。学校との情報共有は個人情報扱いになる為、保護者と直接のやり取りを実施することで、三者で連携が取れるようにしている。

### ○保護者への説明責任等

毎月ニュースレターで前月の活動報告と次月の活動予定のお知らせをしている。契約時に重要事項を丁寧に説明し、個人情報の使用同意をいただいた上で契約をしている。

### ○非常時等の対応

月1回活動の中に避難訓練を設けることによって、様々な場面に合わせた非常時に対応する訓練を執り行っている。

## 保護者様のご意見

### ○環境・体制整備

- ①活動スペースの確保で「はい」の回答約83%、「どちらともいえない」約17%  
「教室が移転してから入室しておらず、教室内の環境については分からない。」  
というご意見があった。
- ②職員の配置や専門性については「はい」の回答89%、「どちらともいえない」約11%

### ○適切な支援の提供

- ④保護者ニーズや課題が分析されているかについて「はい」の回答100%
- ⑤活動プログラムが固定しないように工夫されているかは「はい」の回答約78%「どちらともいえない」約22%

### ○保護者への説明等

- ⑩保護者会の開催等がなされているかについては「はい」の回答約11%「いいえ」の回答約61%  
「どちらともいえない」の回答約28%。
- ⑪利用者からの苦情について迅速かつ適切に対応しているかについて「はい」の回答約72%  
「どちらともいえない」の回答約28%
- ⑫⑬⑭については「はい」の回答が平均97%

### ○非常時等の対応

避難訓練の取り組み等は毎月実施しているが、保護者への周知が足りていない可能性がある。

### ○満足度

事業所の支援に「満足している」の回答約89%「どちらともいえない」と「未回答」約6%  
実費負担で長期休暇の送迎ありで朝夜延長対応を取り入れて欲しいです。  
というご意見があった。

## 昨年度の振り返り

### ○今年度の取り組む具体策

利用者様がどのようにスマートキッズで過ごしているのかを把握できるように保護者会や、サービス提供時間中での見学可能な時間を作れるように動いていく。様子を見ていただいたうえで、今後の支援についてご相談をより深く行う。

### ○改善できた点・まだ残る課題

土曜日が主ではあるが外部での買い物や宅配などを利用した社会経験や、長期休み中の他教室への交流を行うことが出来ている。

課題としては、就労や生活介護含めた職員の専門性を高めると同時にやはり情報が少ない為関係機関と連携できる事業所を増やしていきたい。

## アンケート結果からみる教室の強み・改善点

### ○教室の強み

- ・保護者様からのアンケート結果から、指導員の専門性や生徒との関係、保護者様との関わりに関する点においては良好な回答結果をもらえており、信頼していただけている。
- ・個人情報への配慮や、重要情報の共有を丁寧に行われているかといった点については気を配っており、高い信頼を得られている。

### ○改善点

- ・未だ感染症の流行が続いている状況の為、保護者会や放課後児童クラブ等の、外部での交流が少ない、直接会う以外にも情報共有をできる場面を作る。
- ・高校卒業後の将来に向けた関係機関(就労B・就労意向支援)との連携を努めていく。

## 中長期的な改善計画・1年間で取り組む具体策

### ○中長期的な改善計画

- ・保護者会や放課後児童クラブ等の、外部での交流が少ない点については、活動の時間に保護者様に来てもらう機会を作る、半年に1度程度保護者会等の交流の場を設ける、といった様々な形式で行うことが出来るように検討していく。
- ・中高生を対象にした教室の為、引き続き特別支援学校に通う利用者様に対し自立を含めた支援を通して保護者様やご本人が希望する夢や目標に向かって支援できる体制の整備。就労B型や就労移行支援などに進める支援体制の構築を行う。
- ・支援級に通う中学生の利用者様に対してのフォローと対人スキル含めたSSTの実施。支援級の中学卒業後は進路先の相談や関連機関との連携を強化して行く。

### ○1年間で取り組む具体策

- 支援学校に通っている利用者様に対しては、個々に合わせた支援を行い、集団活動や個別課題のステップアップや見直しを随時行っていく。
- また、支援級のご利用者様には個々のレベルに合わせた私生活や面談等といった様々な場面に対応する対応スキルや場面に応じたSST等を行う。